

令和4年3月31日

静岡市御中

NPO法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ 芸術を届けるプロジェクト』報告書

活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障がいのある子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト。
障害のある子供達に大道芸を楽しんでもらう試み。

訪問者

【出演】

みまさん（ミュージッククラウン）

ノンさん（クラウン）

とっちゅーさん（クラウン）

【協力】

シアター・クラウン・ジャパン協会

中村 光太さん

【主催】

NPO法人 アートコネクトしずおか

理事 遠藤次朗

保崎一乃

活動内容

会 場 静岡市清水岡小学校 体育館

場 所 静岡県静岡市清水区八坂東 1-16-1

日 時 2021年12月24日(金) 10:00~11:20

対 象 放課後デイサービス もえり清水 利用者こども+支援員
放課後支援事業所 あげは 利用者こども+支援員

人 数 両施設合同 40~50名ほど

全体の流れ

紹介・挨拶 (5~10分程度)

演奏 (1時間程度)

終わりの挨拶・記念撮影 (10分程度)

成果

- 最初、みまさん、ノンさん、とっちゅーさんが登場した際には、みまさんのアコーディオンの音楽とリズムカルなステップで、既にどんなことが始まるのか全体的にワクワクする様子でした。
- 中盤、椅子を取り合うノン&とっちゅーさんのパントマイムでは、今回は子供たちの年齢層も小学校低学年~高校生ぐらいの幅があったので、食い付き方やどこで笑うかの年齢差の違いが見えて感慨深かったです。
低学年の子供たちはわかりやすいパフォーマンスの方が盛り上がる。
高学年、支援員さんは見入ってみてる様子。
- みまさんが支援員さんとコラボして風船を作ったりする場面では、コロナ禍を反映した笑いがありました。(トングで風船を渡したり、あえて大量に消毒かけてびしゃびしゃで渡したり)そして、そういった身近な人が前に出たコミュニケーションがあると同じ事業所の子供たちがよりリラックスして戻ってきた支援員さんにツッコミを入れたりしてすごく盛り上がっていました。

- みまさんのオペラも取り入れた演奏とクラウンの一体化のようなパフォーマンスでは、モーツァルトの曲を歌っていただき、オペラだったりクラシックなど普段なかなか聞く機会の少ない曲もクラウンさんが歌うことでとっつきにくさが消えて身近に感じられました。それだけの機会があってもいいぐらいに見入りました。みまさんが歌いながら衣装の袖を広げると紫色の蝶のようになって、羽を動かしてダイナミックでした。歌いながら近づくとひゃーと逃げる子もいれば、興味ありつつも支援員さんによじったりする子もいました。
- 後半、子供たちも一緒にリズムに合わせ手を叩いたり踊ったりとするパフォーマンスでは、最初は固い表情に見えた子供達が声を出して笑ったり、拍手の手の高さが上がっていったり楽しそうでした。
- パフォーマンスが終わると、子供たちの代表の子が「楽しかったです」と感想とお礼を伝えてくれました。また子供たちが帰っていくときには「またきてねー！」と女の子がクラウンさん達と肘タッチをして嬉しそうにしていました。

所感

- 大道芸が始まる前に体育館であげはの子供たちが準備運動をして、屈伸や円形に走り回ったりしていました。場所に慣れる意味でも、また体育館は寒いので座っている際に少しでも温かくするためにも、“見る前の準備タイム“があってもいいなと思いました。
- もえり清水の杉本さんから、コロナ禍になり子供たちをどこかに連れて行きたくても、人混みは NG、いくとなったら山や川、土手などそういった場所ばかりになってしまうので、こういった機会があり本当によかったと言っていました。
- あげはの井上さんから今回事業所の場所などで呼べなかったがもっと呼びたいところや、どこの事業所も同じようにこういった機会があればと思っていると思うので、自分達の事業所だけがという申し訳なさもあるとおっしゃっていて、以前にも音楽パフォーマンスを行った事業所の方も全く同じことをおっしゃっていたので、どこも必要としているのに受け皿が少なく、ひしひしと機会の必要性を感じました。

- 始めは場に慣れていないのもあるのかお腹を出して寝そべったりしていた子も（それはそれで楽しんでくれていた様子だったので良かったのですが）段々と引きつけられるように身を乗り出してパフォーマンスを見始め、手を頭の上で輪を作るように拍手していたり、最後に全員が立って音楽に合わせてダンス・拍手をする際は一番先頭に出てきて楽しそうに踊っている姿には感動を覚えました。





障がいや病をかかえる子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト アンケート

今後のイベント運営のために、ご感想・ご意見をお聞かせください。

開催 施設名	もえり清水
ご担当者名	杉本尚美
開催日時	
開催ワークショップ内容	大道芸 音楽演奏 演劇 絵画アート
開催を希望したきっかけ	静岡市からの案内を見て申し込みしました。この2年のコロナ禍での活動は、外出は山・土手・海など外出はしていますが、人との関わりの場は求められず、子供たちにとって大切な機会を持つことが出来ない状況でした。そんな中、少しでも楽しく人との関わりの時間が持てたらと思い申し込みさせて頂きました。
開催にあたってのご感想	子供たちの表情がにこやかになっており、嬉しかったです。コロナ禍でのご対応ですので、パフォーマーの方たちご苦労されたのではないかと思います。本当にありがとうございました。企画・実行をして頂いた方々のご尽力に感謝申し上げます。 子供の年齢が小学1年生から高校3年生までと幅広い事と、発達障害等のお子さんですので、もう少し子供たちになじみのある楽曲等にして頂けるといいのではないかと思います。
今後希望したいプログラム	音楽演奏でマーチングバンドのようなパフォーマンスを見せて頂けると、耳も目も楽しめるかもしれません。(音の過敏性を持っている子も多いので、一概に言えませんが、すみません) よろしく願い致します。

ご協力ありがとうございました。今後の活動の参考とさせていただきます。

令和4年3月31日

静岡市御中

NPO法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ 芸術を届けるプロジェクト』報告書

活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障がいのある子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに生の音楽に触れ、音楽を身体で楽しんでもらう試み。

訪問者

出演
あんざいのりえさん
(アコーディオン弾き)

NPO法人 アートコネクトしずおか
理事 遠藤次朗
保崎一乃

活動内容

会場 静岡市清水岡小学校 体育館
場所 静岡県静岡市清水区八坂東 1-16-1
日時 2021年12月28日(火) 13:30~14:40

対 象 放課後デイサービス もえり清水 利用者こども＋支援員
放課後支援事業所 あげは 利用者こども＋支援員
放課後等デイサービス アイム春日 利用者こども＋支援員
放課後等デイサービス いろは 利用者こども＋支援員

人 数 全施設合同 75 名ほど

(予定では 50 名ほどでしたが当日 2 事業所 (アイム春日、いろは) が追加参加)

全体の流れ

紹介・挨拶 (5~10 分程度)

演奏・パフォーマンス (1 時間程度)

- ・アコーディオンの演奏、タップダンス
- ・演奏に合わせて身体を動かしました
- ・ミュージックパッドを使ってみんなで演奏しました
- ・缶を使って演奏しました
- ・演奏に合わせて身体を動かしました (アンコール)

終わりの挨拶・記念撮影 (10~20 分程度)

成果

- 序盤にアコーディオンの楽器紹介をしていただき、「実際に弾いてみたいひと？」と声をかけると何人かすぐに手をあげてくれて、実際に鍵盤を触って楽しそうでした。その際に支援員さんとの会話の絡みがあり、そういった会話があると子供たちだけでなく支援員さんも反応しやすく、それが伝わりさらに子ども達がリラックスした様子で全体の空気がより暖かくなりました。
- 演奏が始まると、アコーディオンのメロディがとても伸びやかでそこにタップダンスが組み合わさるとタップダンス独特の音に一気に視線を向けていました。
- アコーディオンを演奏しながらコロナ対策はしつつも子どもたちに近づいていくと、ひゃーと引いているようで照れながら嬉しそうな顔をしている子、こっちもこっちもと手を上げて呼んでいる子もいれば、来て欲しいけどなかなか声をかけられなくて体育座りで照れている子もいたり、少し近づくとそれだけで一気に華が出るように盛り上がっていました。

他にもリズムに乗って立ってびよんびよんジャンプして嬉しそうな顔をしている男の子や、支援員さんと一緒に拍手してくれた男の子、真剣な眼差しで見てくれた女の子、気を使いながらもツッコミやボケを言っていた中学生くらいの子と色々な表情で楽しんでくれている様子でした。

- アコーディオンの音楽に合わせて囲うように体育館内を走ったり歩いたりしました。音楽のリズムによって走ったり歩いたり止まったりと、動きに緩急があり全体の一体感が生まれました。子供達は思いっきり走り回ったり、支援員さんと手を繋いで回ったりと嬉しそうな様子でした。
- 『ミュージックパッド』という「ド」「レ」「ミ」など音階ごとに色が分けられた円形のスポンジのような素材で、踏むとそれぞれの音階が鳴るパッドを使用し、事業所ごとに参加した子どもたち（各事業所一人、二人）が前に出て、それぞれの音階を担当してみんなで「きらきらぼし」を演奏しました。
- 最初にミュージックパッドをあんざいさんが出して音を鳴らした時、見かけない物に一気に子供達の視線が集まりました。目がパッと開いてワクワク感がこちらまで伝わってきました。
- 缶の側面に板を置いてバランスを保ちながら乗り、なおかつアコーディオンも演奏するというパフォーマンスでは、難易度が高く乗るタイミングを計っていると子どもたちの一人が「頑張れー！」と応援の声、続けて合図のように他の子ども達も「頑張れー！」「頑張れ！」「無理なくていいからねー！」と声をかけていて、逆に集中できなくなりそうなくらいに響き渡る大きな声援になりました。その純粋な優しさのバリエーションに感動しました。
- 最後の演奏が終わると子どもたちの方から「アンコール！」の掛け声がありました。急遽、あんざいさんが一曲演奏してくださり、体育館の真ん中で子どもたちが囲むように自由に走り回ったり歩いたりしていました。最初にアンコールの掛け声をかけた中学生くらいの子は時間を気にしてくれているようでちょっと申し訳なさそうな顔もしていたのですが、あんざいさんのラッパを借りプープー鳴らして一緒に演奏すると、その子の周りに他の子どもたちがやってきて、そこでまた演奏していい笑顔を見せてくれました。
- 最後の写真撮影では「せんせー！」「せんせー！」とあんざいさんを子ども達が呼んでいて、実際は先生ではないけれども思わずそう言うくらいにすごく懐いている様子でした。
- 撤収の作業をしているときも荷物搬出口のところまで、子どもたちがお礼を言いに来てくれました。全体でお礼を言ってくださった後にも個々で言いに来てくれる子どもたちが何人か

いました。改めて本当に楽しんでもくれたんだなという喜びと、あんざいさんのパフォーマンスの凄さに感動いたしました。

所感

- 演奏開始まで待ち時間があり、その間は準備運動をしたり体育館を走ったりして調整していただいたのですが、事業所ごと集合して座って待っている際には、子供たちが前に出てクイズを出し合ったりして（支援員さんや他の子供たちがツッコミを入れたりしながら）開始前から盛り上げていただきました。結構な人数の中、前に出て話すのは度胸勇氣がいることだと思うので、もちろん元からの性格が関係があると思いますが、日頃から緊張しないでいられる環境なんだなと遠目から思いました。
- ミュージックパッドを使用した演奏では、事業所ごと一つ、二つのパッドだったのでミュージックパッドを巡り参加したい子供達でジャンケン争奪戦を行いました。残念ながら負けてしまった子はしばらく落ち込んで大分いじけていましたが、最後にはアンコールで走って全体写真にも入ってくれていたのが良かったです。
- ミュージックパッドの演奏は、あんざいさんが音階のパッドの色を記したノートをめくってそのページの色の担当の子が足元のパッドを踏んで音を出して演奏しました。演奏中はどの子がどの音階か自分の番がいつか気が付いていない様子の子もいたのですが、周りで「赤！緑！」と声を出して分かりやすく教えてあげている子もいて、パッドを踏んでいる子供達だけでなく、全体と一緒に演奏していると感じました。
またノートの音階が色だけでの違いだったので、（色弱のものもある可能性があるので）ミュージックパッドとノートに色の名前や番号、マークが大きく表示してあったらもっとわかりやすいかもしれないと思いました。
- 全体を通じ、座っているだけでなく、所々子供達の身体を動かすパフォーマンスがあると、より一体化や集中力が持続するように感じました。
- また今回は前回と同じ場所で参加していただいた子ども達も続けての参加だったので、前回よりも場所やどんな雰囲気が始まるのかイメージが掴みやすくとっつきやすかったかなと思いました。





障がいや病をかかえる子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト アンケート

今後のイベント運営のために、ご感想・ご意見をお聞かせください。

開催 施設名	放課後支援事業所 あげは
ご担当者名	井上温子
開催日時	令和3年12月28日
開催ワークショップ内容	大道芸 <u>音楽演奏</u> 演劇 絵画アート
開催を希望したきっかけ	コロナ禍でこれまで行っていたギター演奏などの音楽行事が出来ていなかったため、芸術に触れる機会として開催を希望しました。
開催にあたってのご感想	朝から「今日は何がある？」というドキドキ感や、いつも行く体育館の雰囲気が違うことから「何が始まるのか？」というワクワク感、さらにアコーディオン演奏が始まってからはずっと目をキラキラさせながら体験する子供たちの姿が見られました。通常の支援では与えられない刺激を与える機会をいただけて、スタッフとしては本当にありがたい企画でした。障害のある子供を連れて大道芸を見に行くことは保護者さんにとってはなかなか難しいので、今回体験できたことをほとんどの保護者さんに喜んでいただけました。もちろん今後も継続していただけることを切望しています。
今後希望したいプログラム	いろんな大道芸のアーティストさんたちにお会いできればどんなプログラムでも大丈夫です。一緒に歌う、踊る、手をたたくなどの行動が伴うプログラムはより喜ぶかもしれません。じっと座って観ることも学ばせたいことなので、参加できる機会を増やして頂けるとありがたいです。

ご協力ありがとうございました。今後の活動の参考とさせていただきます。

令和4年3月31日

静岡市御中

NPO法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ 芸術を届けるプロジェクト』報告書

活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障がいのある子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに大道芸で楽しんでもらう試み。

訪問者

【出演】

ブッチィーさん（クラウン）
王子 菜摘子さん（ミュージカル女優）

【協力】

シアター・クラウン・ジャパン協会
中村 光太さん

【主催】

NPO法人 アートコネクトしずおか
理事 遠藤次朗
太田博之
保崎一乃

【見学】

静岡県障害者文化芸術活動支援センター
みらーと
田代 大輔さん

活動内容

会 場 〒420-0873 静岡県静岡市葵区籠上 3-34 かぶとむしクラブ籠上 2 階

場 所 〒420-0873 静岡県静岡市葵区籠上 3-34

日 時 2022 年 3 月 11 日 (金) 15:30~14:30

対 象 かぶとむしクラブ籠上 利用者こども + 支援員

(子供達の年層としては、小学校3年生~5年生が主で、
中学生、高校生ぐらいが2、3名いました。)

人 数 20 名ほど (子供達 15 人、支援員 5 名ほど)

全体の流れ

紹介・挨拶 (5 分程度)

パフォーマンス (50 時間程度)

- ・ブッチィーさん、王子さんの紹介 (演奏と風船アート)
- ・ブッチィーさんのマジック、皿回し
- ・王子さんの演奏、「ひとりミュージカル」
- ・みんなで風船アート

記念撮影 (10 分程度)

成果

- パフォーマンス開始まで 10 分ほど時間があり、その間もブッチィーさん、王子さんが手遊びの準備運動をしてくださり、その時点で子供達はギャハギャハ笑って心を驚掴みにされました。
- ブッチィーさんの皿回しのパフォーマンスの際は、皿回しの回し方についてどうこう子供達とやりとりがあったのですが、「こうやって回すんだっけ〜?」とやりとりをしていると、小学校高学年ぐらいの女の子が前に出てきて、ブッチィーさんが持っていた棒を持って「こう

だよ！こうやってやるの」と直接伝えてくれました。

その後、皿回し芸が一旦終わると先ほどの女の子が、「私も皿回しできる！やりたい！」ともう一度前に出てきました。「本当にできる～？重たいよ～」とブッチィーさんが言うと、それでも「やりたい！」目はやる気スイッチが ON！以前やったことがあるようで意気込んでいました。しかし実際にやってみるとお皿が重たかったようでうまく回せられずいると、ブッチィーさんが違う棒を渡し、ブッチィーが回したお皿をその棒に乗っけて、無事回せて一件落ち着いた様子でした。その場の状況に合わせた臨機応変な対応に大道芸人さんのプロ意識と愛情に感動いたしました。

- 王子さんの美声とバンジョーギターというギター演奏に合わせて、ブッチィーさんが風船アートを作るパフォーマンスでは、鬼滅の刃の「紅蓮花」、オリパラ応援ソング「パブリカ」を演奏していただきました。歌い始めた瞬間から、あー！と声が湧き、一緒に歌っている子もいました。（ちなみに風船アートは紅蓮花から鬼滅の刃の主人公、竈門炭治郎の刀（水の呼吸バージョン）とリボンとハートがかかったお花でした。）
- 王子さんの「ひとりミュージカル」ではコートかけを相手役として一人二役でダンスを踊っていただきました。不思議な世界観と歌声や手の動きに魅了され、相手役として実は隣に透明人間がいるのではないかと思ってしまうくらいに見入ってしまう素敵なパフォーマンスでした。
子供達の反応も色々で、すごくロマンティックなパフォーマンスで見入っている子もいれば、ラブロマンスの流れにウエーと拒否する子や、パフォーマンスが一人で男女役を手つきから演じ分けていらっしまったので、どういう仕組みになっているんだろうとロボットがいるのかなあと不思議そうに考えている子もいました。
- 最後の方には子供達、支援員さん、訪問した私共もみんな一緒に、実際に風船アートで「ネズミ」を作りました。風船アートを初めて作った様子の子が多かったですが、みんな各々のネズミを完成させていました。作ったネズミは、手で輪っかを作り、その中にネズミのお尻を入れて、尻尾を引っ張ると高くぴょんっと飛び出して、子供達は夢中で飛ばしあったりしていました。
- 記念撮影では、王子さんがレ・ミゼラブルより「民衆の歌」の一説を歌い「わーか者たちの歌が聞こえるかー♪」それに合わせてブッチィーさんが「撃てー！」と革命の合図、支援員さんの撮影用のスマホ目掛けて子供達が作ったネズミを思いっきり放ち、大いに盛り上がりました。支援員さんにとっても、良い写真も撮れてすごく考えつくされた演出の流れだと感動いたしました。

- 記念撮影も終わり、片付けに入っても子供達はなかなかブッチィーさんや王子さんの周りから離れず、思いっきり体を預けてたくさん話していました。最初は皿回しでちょっと強気なツッコミを入れていた女の子も、ブッチィーさん王子さんに駆け寄って抱きついて、本当に楽しそうでした。

所感

- ブッチィーさんのパフォーマンスのあと、王子さんの音楽と、「ひとりミュージカル」の流れが、全体の緩急になっていて、声をガンガン出して熱が上がった後に、しっとりとした音楽やミュージカルで落ち着いて、そういった一緒に物（ネズミ）を作ると、その時も楽しく、なおかつ思い出としても残り、また遊べるのですごくいい演出だなと感動いたしました。
- ブッチィーさんは会話の中で所々駄洒落、親父ギャグをぶち込んでいらっしゃっていたのですが、それに対する子供と大人の反応の違いがわかりやすく、子供達はポカンとしているのに対して支援員の先生方や私どもは爆笑といった違いが興味深かったです。ブッチィーさんいわく、支援員さんも含めて楽しんでもらうことでそれが伝わって子ども達も安心して楽しめるので、あえて大人に対しての笑いも入れているとのことでした。
- パフォーマンスで使用した音楽で、低音が響く歌があり、その際に若干耳を塞いでいた子供がいました。音量は他の音楽・演奏と変わらないように聞こえましたが、低音で響く音の場合は聞こえ方の印象が変わるのだと感じました。
- 一旦席に着こうと呼びかける際に「5秒以内に座らないと太るぞ！」と大柄のブッチィーさんが言うと、子供達は急げ急げと速やかにお行儀良く座りました。具体的な数字とそうなたら少々嫌だなという意識を組み合わせるとこんなにもすぐ動くのかと驚きがありました。その時に、中学生くらいの子が「ちょっと立ってみようかな」とニヤリと膝立ち。するとブッチィーさんが「あー！座ってない！君はこの3年かけて太ります。」と一言。笑いが起こりました。
- ブッチィーさんがパフォーマンスで子供達と会話する際に、あえて間違えたりする中で、最初は数人程度が「違うよー」と教えていたりしたことが、「なるほどね～ありがとうね～教えてよ～」と子供達にやり方を問って感謝することで、子供達も教えてあげなくちゃ！という気持ちになり、安心してどんどん指摘をするようになり、どんどん大きな声になってツッコミが盛り上がっていきました。子供達のワクワクさを自然に引き出して持っていきやりとり

が暖かくさすがプロと感動いたしました。

また、マジックや皿回しで「違うよー！」と子ども達が散々指摘し終わった後でサラッとブッチーさんがパフォーマンスを成功させた時の反応が、驚きと戸惑いとなんとも言えない無音が流れ、素直な感情が丸ごと詰まっていました。





障がいや病をかかえる子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト アンケート

今後のイベント運営のために、ご感想・ご意見をお聞かせください。

開催 施設名	株式会社 T&T かぶとむしクラブ籠上
ご担当者名	田中 洋好
開催日時	令和4年3月11日(金)
開催ワークショップ内容	大道芸 音楽演奏 演劇 絵画アート
開催を希望したきっかけ	コロナ渦の中、密集した大勢の中にはなるべく出ないようにしていて、少人数での活動をしている中で、ゲストを呼んでけん玉をやってみたり、陶芸など体験を通じて学びを深めてきた。大道芸もワールドカップが開催されず、もともとご縁もなかった中、今回応募させていただいて、実現に至った。
開催にあたってのご感想	ピエロと歌のおねえさんがやってきて、子どもたちは知っている歌を歌うなど、興味を示したり、思わず前に出て実際にやってみたりと、とても盛り上がっていたと思いました。バルーンアートも行っていただき、全員がお手本通りにいかなかったものの、指導員のサポートもあり、最後には作品を作りあげることができ、子どもたちも満足そうな顔をしていました。1時間という長時間でいろいろと披露して頂き本当にありがとうございました。 また別店舗でも開催していただきたいです。
今後希望したいプログラム	子どもたちの様子を見ていて、また大道芸をお願いしたいと思いました。

ご協力ありがとうございました。今後の活動の参考とさせていただきます。

令和4年3月31日

静岡市御中

NPO法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ 芸術を届けるプロジェクト』報告書

活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障がいのある子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに大道芸で楽しんでもらう試み。

訪問者

【出演】

ブッチィーさん（クラウン）
王子 菜摘子さん（ミュージカル女優）
嶋村 彩さん
（パーソナルトレーナー・ダンサー）

【協力】

シアター・クラウン・ジャパン協会
中村 光太さん

【主催】

NPO法人 アートコネクトしずおか
理事 遠藤 次朗
太田 博之
保崎 一乃

活動内容

会 場 放課後等デイサービス にじいろ 2nd
場 所 〒422-8034 駿河区高松一丁目 17-15
日 時 2022年3月12日(土) 13:15~15:00
対 象 放課後等デイサービス にじいろ2nd 利用者こども+支援員
放課後支援事業所 あげは 利用者こども+支援員
人 数 35名ほど(予定では25名ほどでしたがあげは(約10名ほど)が追加参加)

全体の流れ

紹介・挨拶(5分程度)

パフォーマンス(1時間45分程度)

- ・身体を使った遊び(嶋村さんが主導)
- ・マジック、風船アート(ブッチィーさん、王子さんが主導)
- ・音楽演奏、ひとりミュージカル(王子さんが主導)
- ・みんなで風船アート

終わりの挨拶・記念撮影(10~20分程度)

成果

- 初めに音楽に合わせて身体を動かして遊びました。
室内を手拍子や音楽に合わせて、ぶつからないように小走りで歩いたり、ゆっくり歩いたり、匍匐前進したり、座ってお尻を回したりしました。
- その中の「背骨で挨拶」というプログラムでは背骨を動かすイメージで、2人1組で向き合い、声を出さずに上半身を自由に動かしてお互いに決めポーズをし合うといった内容で、実際にやってみる前に嶋村さんとブッチィーさんがお手本を見せた後、各々で組になってやり始めました。
最初はどうかやっていいのかわからず困ったような感じで小さな動きだった女の子達も、嶋村さんからアドバイスを受けると、「こうかな?」とちょっと恥ずかしそうではありつつも段々とダイナミックに動いていたりしました。
背骨で挨拶の最後の方は嶋村さんがブッチィーさん、王子さんと一対一で背骨で挨拶をやってみたい人~!と声をかけると、おずおずと1、2人が手をあげてくれました。しかし実際にやっているのを見ると他の子達もどんどんやってみたくなるのか、次々拳手が上がりました。

子供達は側転をしたりブリッジをしたり開脚をしたり色々な決めポーズを見せてくれました。身体を使ったラップバトルのような様子でとても盛り上がりました。

- みんなで手を繋いで大きな円になり、隣の人の手を握って電気のように伝える遊びでは、1周回るまでに時間がかかりつつも届いた時には達成感でとても嬉しそうでした。
また、大きな円になっていたときに、一人、多動の傾向が強く離れてみて回っていた男の子が、ふら～とその円の真ん中に入って、自由にくるくる踊っていました。一瞬あっけにと取られつつも、それはそれは楽しそうで、気持ちよさそうに踊っている様子に嶋村さんが「これはこれでいいな！」と一言。しばらくして「よーし挟んじゃうよ～」とみんなで真ん中へ向かうと、ヒョイっと輪を抜けて別室へ行ってしまったのですが、そのダンスも含めていい空気感でした。
- 王子さんのピアノ演奏と、ブッチィーさんの風船アートのパフォーマンスの際は、風船アートで何を作っているのかがわかると子供達は「あれだあれだ～」とヒソヒソして「これな～んだ？」という掛け声に大きな声で反応してくれました。
- ブッチィーさんのマジックでは、最初今までにどこかしらで見たことがあるお手玉などマジックで始まり、子供達からの若干のブーイングや「みたことある～」などのツッコミなどの反応からどんどん広がっていく流れなのかと思いや、子ども達は色々考えて空気を読んだのか、少しの静寂のあと遠慮がちの拍手と、男の子が「すごい！すご！」と声を上げて盛り上げようとしてくれました。
しかし、その後だんだんと雰囲気慣れてくると、ブッチィーさんのパフォーマンスに「えー違うじゃん！」「こうだよー！」と最初とは全く違う表情になり、声が大きくなって賑やかで楽しそうでした。ひもを使用したマジックではブッチィーさんが紐を数えながら「じゃあここは？……につぼんだよ～！」という、ぽかんとした表情でしたが、パフォーマンスの終わりにもう一度聞くと、はちきれんばかりの声で一斉に「につぼーん！！」と答えてくれました。
- 王子さんにオリパラ応援ソングの「パプリカ」とアナと雪の女王の「レット・イット・ゴー」をピアノとともに歌っていただきました。
「パプリカ」の演奏時には全体で手拍子をしていると、後ろの方にいた女の子が立ち上がり踊り始めました。他の子ども達は座っていたので、やっぱり座ろうか迷った様子でしたが、最後まで一生懸命踊ってくれました。一緒になって盛り上げようとしてくれる姿がありがたかったです。
また「レット・イット・ゴー」の歌の際は1番2番で日本語版と英語版で歌っていただきました。圧倒的な歌唱力はもちろん、普段あまり聞き慣れない英語バージョンに子ども達は一瞬予想と違ってびっくりした様子で、そこでまた惹きつけられて聞き惚れている様子でした。

- 王子さんの「ひとりミュージカル」のパフォーマンスの際は一人二役でコート掛けを相手役としてダンスを踊っていただきました。美しい歌声とユーモラスなやりとりに感動いたしました。相手役に最後にキスをするシーンでは、子ども達の中には思いっきり拒否反応があり、前回のかぶとむしクラブさんでのパフォーマンス時と同様にラブストーリーになった時の子供達の反応と一緒に、子供目線の素直かつぐっさり刺さる発言に年齢差での見方の違いを考えました。
- 最後に全員で一人一つ風船でネズミを作り、一斉に支援員さんのカメラに向かって放ちました。子ども達は弓を引くかのようなピシッとした姿勢でネズミの尻尾の部分引っ張って放つタイミングをうずうずしながら待っていました。
- 記念撮影や挨拶が終わっても子ども達はブッチィーさん、王子さん、嶋村さんにべったりくっついて、支援員さんが呼んでも居る時間を伸ばそうとしている様子で「今度さ、いつくる？」と質問したり、渋々名残惜しそうに肘タッチをして支援員さんの方に戻って行きました。











障がいや病をかかえる子どもたちへ芸術を届けるプロジェクト アンケート

今後のイベント運営のために、ご感想・ご意見をお聞かせください。

開催 施設名	放課後等デイサービス にじいろ 放課後等デイサービス にじいろ 2nd
ご担当者名	田代康二
開催日時	2022年3月12日
開催ワークショップ内容	大道芸 音楽演奏 演劇 絵画アート
開催を希望したきっかけ	子供たちにプロの技を体感して欲しかった。 コロナ禍において、社会全体が様々な我慢を強いられており、当事業所の子供たちも芸術に触れあう機会が大幅に減少しており、子供たちが少しでも笑顔になってくれるように申し込みに至りました。
開催にあたってのご感想	大道芸のみならず子供たちが一緒に参加できる体操や遊びも行ってくれました。パフォーマーの方々も「これぞプロの技」という演技や歌声を惜しみなく披露して下さり、子供たちは約2時間、目をキラキラと輝かせ夢中になって鑑賞していました。 一緒に参加できる感じのプログラムも参加した実感が湧きとても良かったです。 限られた場所の中で工夫を凝らして頂きありがとうございました。
今後希望したいプログラム	大道芸も是非また見たいですが、音楽演奏や演劇、前半に行っていた体を使った運動・遊びなども希望したいです。

ご協力ありがとうございました。今後の活動の参考とさせていただきます。